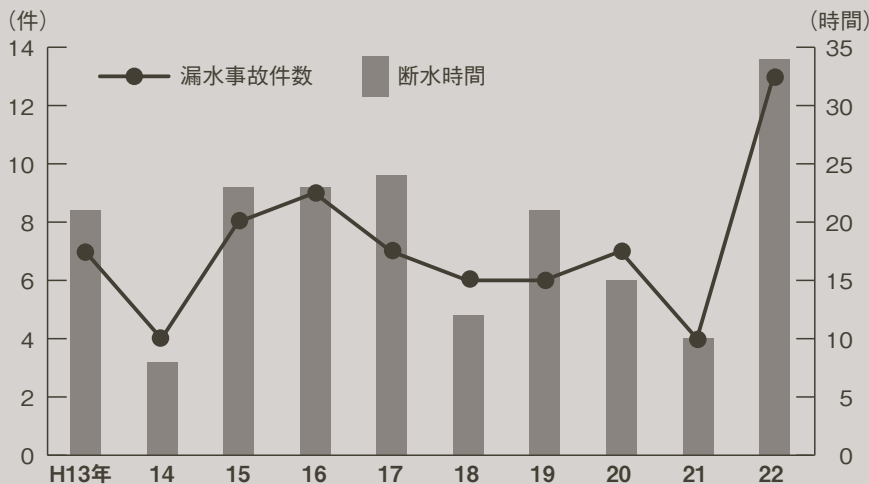


シリーズ いしかりの水道2 ～安定したサービス維持のために

なぜ、 料金改定が必要か？

生活に欠かすことのできない水。この水を将来にわたり安心して使うために必要なことは何か。今回は水道料金改定につながる3つの要因についてお伝えします。

漏水件数と断水時間



▲漏水事故が起こると、復旧には断水する場合も多く、市民の皆さんにご不便をおかけすること…

改定要因 その1 恒久水源を確保するため

石狩市の水道は、旧石狩市域が深層地下水を、厚田区・浜益区は河川水を水源としています。旧石狩市域では河川の水利権が取得できないなどの理由から、これまで地下水に頼り、不足分を札幌市からの供給で対応してきました。この札幌市から購入する分は、地下水から作る分より単価が高いため、できる限りその使用量を抑制するべく、地下水を有効活用しています。

しかし、地下水のくみ上げには地盤沈下や塩水化、地下水汚染の危険が潜在しています。この問題は、過去の大規模な団地造成によって人口が増大し、くみ上げ量が激増することで、なお一層懸念されるようになりました。

そのため、市では平成4年度より北海道、札幌市、小樽市、当別町と石狩西部広域水道企業団を設立。平成25年4月には当別ダムを水源とした企業団用水を受水する予定です。

改定要因 その2 老朽化した施設を更新するため

水道施設は、各家庭に水道水を送り続けるため24時間休むことなく稼働します。そのため、年数の経過とともに傷みも激しくなります。中でも、昭和50年代前半までに整備した施設は老朽化が進み、最近では配水管の漏水事故が花畔地区や厚田地区などで発生しています。このよう

なことから、市では安定した水道サービスを維持するため、計画的に施設更新を実施する予定です。

改定要因 その3 水道施設の耐震化を進めるため

近年相次いで発生した大地震では、多数の世帯が断水し、給水再開までに数週間を要しています。あらためて、水道は市民生活に欠かせないライフラインとして、災害時でも給水を維持できるような施設や管路の耐震化が必要です。市では、平成10年以降に新設した配水場などの重要施設は耐震施設として建設し、基幹管路は耐震管を敷設してきました。今後も重要施設については早期に耐震化を進め、その他の施設や管路は更新時に耐震化を行うことで、災害に強い水道を目指します。



新たな水源確保と老朽化施設の更新によって、水の安定供給に対する技術的な問題は解消されます。

しかし、一方では多額の費用もかかります。市はこれまでも事業の効率化などさまざまな工夫を行ってきましたが、水道の経営はさらに厳しくなることが予想され、水道事業の運営が危ぶまれている状況です。サービスの維持には、技術的な問題とともに経営の改善も必要です。

—— 次回は〈水道の経営状況〉についてお伝えします。

教育 NEWS

ようこそユネスコスクールへ！

生振小学校に続いて双葉小学校も

●ユネスコスクールとしての 生振小学校の取り組み

生振小学校は、平成22年3月に、道内小学校では初となる「ユネスコスクール」の認定を受けました。

同校では、6年生の児童が中心となって「書き損じはがき」の収集活動を展開。収集したはがきは、カンボジアに学校を建設する「世界寺子屋」



世界寺子屋運動についての授業風景

運動（学校がなく、教育を受けられない子どもたちがいる国への支援）に役立てられています。

児童は、世界の子どもの状況（貧困や、教育を受けられないなど）について学習し、「世界の困っている人を助ける活動を広げたい」という気持ちを持つようになったと言います。そして、「世界寺子屋運動」を紹介するリーフレットを自分たちで作

り、街頭で市民の方々に広くPRするなど、積極的にユネスコ活動に取り組んできました。

* * *

生振小学校では、「私たち人類が地球で生きていくためのいろいろな問題について考えていくこと」（持続発展教育）を、年間を通しての学習テーマとして取り組んでいます。

児童は、ユネスコについての理解や、人とのつながりなどについて学習し、その成果を地域の方々に発表したり、



◀生振小の児童が作成したリーフレット

●市内における ユネスコ活動の広がり

市内では生振小学校のほか、双葉小学校が積極的にユネスコ活動に取り組んでおり、現在、ユネスコスクールへの加盟申請を行っているところです。また、書き損じはがきの収集によ

また石狩ユネスコ協会（村中誠治会長）の支援を受けて、インターネットを通じてアメリカの大学生との交流をするなど、ユネスコ活動についての学習を深めています。

ユネスコスクールとは？

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の「教育・文化の振興を通じ、戦争を繰り返さない」という理念を、学校で実践していくのが「ユネスコスクール」です。

こうしたユネスコスクールには、現在は世界180カ国で約9,000校、日本国内でも約300の幼稚園や学校等が加盟しています。

る「世界寺子屋運動」は、ほかの小学校や幼稚園などでも取り組みが始まっていて、ユネスコ活動は広がりを見せています。

▶街頭で自作のリーフレットを配りながら、書き損じはがき収集の協力をお願いする、生振小の児童

